

## D8

## 人見知りの人・人見知りではない人の差

関 蒼彩

## 要 旨

どうして、初対面の人に話しかけることができる人とできない人に差があるのか。私は、幼い頃から長い時間共に生活する兄弟姉妹の存在がその人の人見知り度合い（「人見知り」とは従来子どもが知らない大人を見て恥ずかしがったり嫌ったりする行動を差す言葉であるため、以下「対人不安」とする。）に影響を与えるのではないかと考え、兄弟姉妹構成と対人不安に関するアンケートを取り考察した。その結果、兄弟姉妹構成による対人不安への影響はほとんどなく、男女間での違いが認められた。

## 1 目的

幼い頃から一緒に会話したり遊んだりする兄弟がいることはその人の対人不安傾向に関係するの  
かアンケート調査を行い、検討する。

## 2 方法

・甲陵高校 1～3 学年生徒に、アンケートで対人不安度を計る項目と兄弟姉妹構成を回答してもらいその傾向をみる。

〈アンケート！総数 394〉

1 兄弟姉妹構成、2 対人不安度を計るための項目（以下①～⑭）に回答してもらう。

- ① 人と目を合わせて話すのが苦手だ
- ② 人前であまり自分のことを話さない
- ③ 他人から友達になるまでに時間がかかる（会って 5 回目以上）
- ④ 初めての集まりに参加するとき、積極的に輪の中に入っていくことが出来ない
- ⑤ 行動するとき人にからの評価がとても気になる
- ⑥ 新学期がいつも憂鬱である
- ⑦ 自分に対し自信がない
- ⑧ 上手く話せなかった時に後悔する
- ⑨ 電話には極力出たくない
- ⑩ 人が大勢いる場が苦手である
- ⑪ 人前で喋ると顔が赤くなる
- ⑫ 初対面の人と話すことを避けてしまうことがよくある
- ⑬ 友人ではない、単なる知り合いの人と 2 人きりになった時にとても緊張する
- ⑭ 特別親しいという訳では無い友人や先生に話しかけるのをためらう

※上記の項目で当てはまるとしてチェックした数が多いほど対人不安度が高いとする。

## 3 結果・考察

## ①兄弟構成別対人不安度について

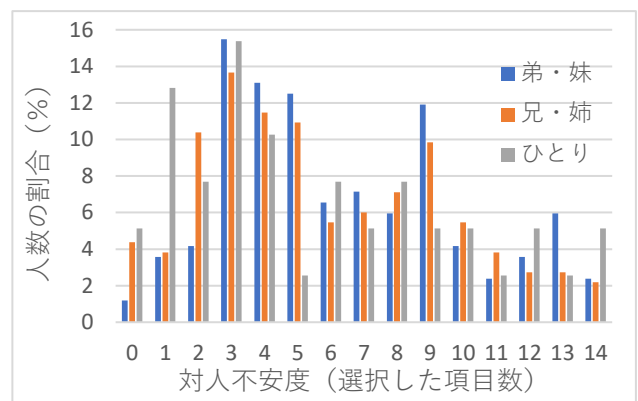


図1 兄弟姉妹構成別対人不安度

縦軸は人数の割合、横軸は選択した項目数を表している

兄・姉、弟・妹、ひとりっ子の 3 つの項目において、それぞれの対人不安度で大きな違いは見られなかった。しかし、どの項目でも対人不安度 3～5 が目立っていることから、**ある程度の対人不安傾向を持つ人が多い**ことが分かる。

## ②上下兄弟間の項目別対人不安傾向の差

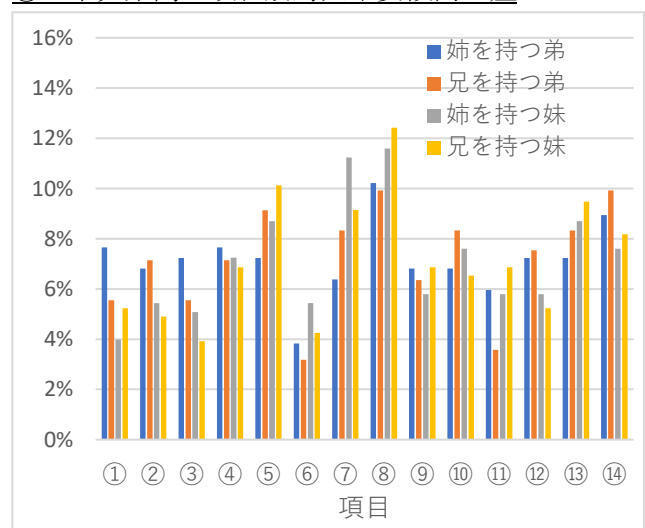


図2 各項目別選択者割合(弟妹)

縦軸は項目を選択した人数の割合、横軸は項目①～⑭を表している

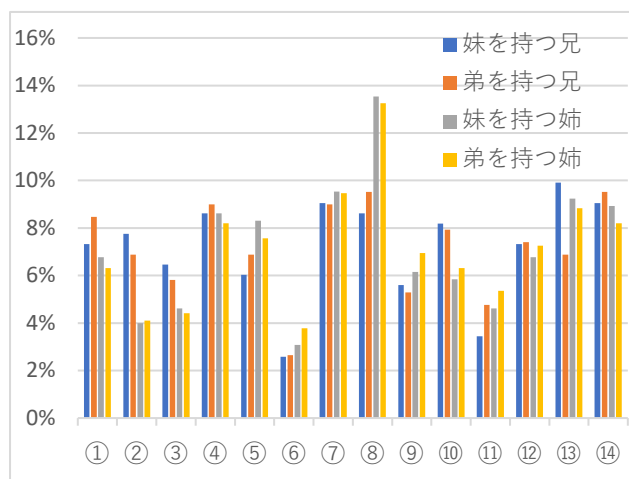


図3 各項目別選択者割合(兄姉)

縦軸は項目を選択した人数の割合、横軸は項目①～⑭を表している

◇『④ 初めての集まりに参加するとき、積極的に輪の中に入っていくことが出来ない』という項目でのみ兄・姉と弟・妹間の有意差が確認された。

→兄・姉である人は、初対面の人と1対1で話すことよりも複数名の初対面の人のグループに入っていくことが苦手と考えられる。

※上記以外の13項目で兄弟姉妹構成による対人不安の違いが認められなかった。

→兄・姉であるか弟・妹であるかどうかは、その人の対人不安傾向にほとんど影響を与えないと考えられる。

### ③男女間の項目別対人不安傾向の差

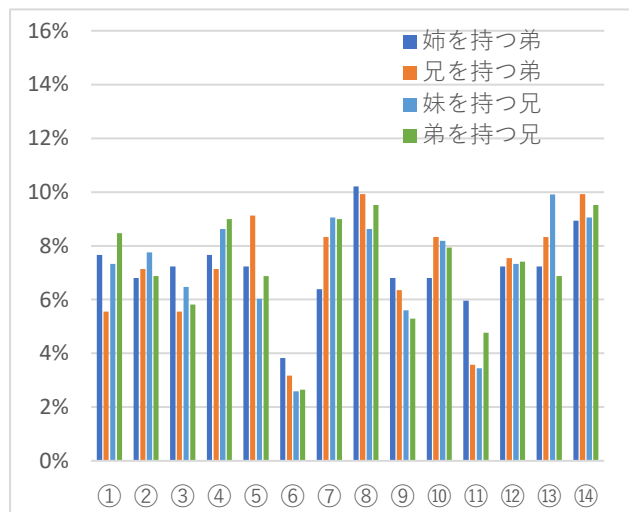


図4 各項目別選択者割合(男子)

縦軸は項目を選択した人数の割合、横軸は項目①～⑭を表している

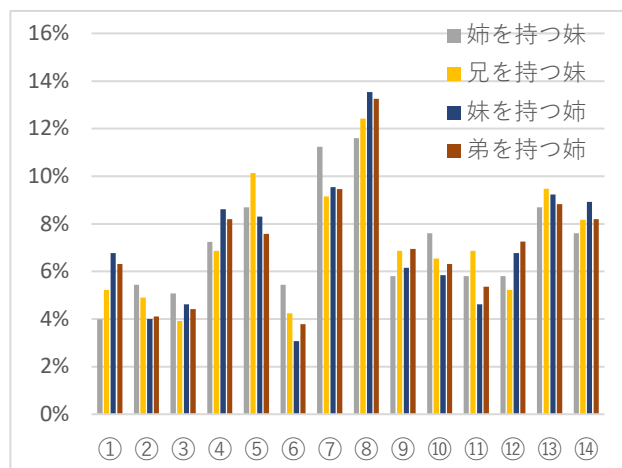


図5 各項目別選択者割合(女子)

縦軸は項目を選択した人数の割合、横軸は項目①～⑭を表している

兄弟間の対人不安傾向を調べていく中で、②③⑧⑭の4項目において男女間の違いが認められた。②③⑭に関して、「人前で自分のことをよく話す」「友達になるまでにあまり時間がかからない」「ただの知り合いに話しかけるのをためらわない」という女子の特徴がわかる。また、高校生女子は『複数からの安全保障の獲得』『浮いた存在になることの忌避』により固定的・閉鎖的なグループを作り行動する、という佐藤(1995)の論文より、**女子は一人で行動しなくてもいいように早く友達を作りたい**と考えることができる。

## 4 結論

兄・姉がいるか弟・妹がいるかは、その人の対人不安度合いへの決まった傾向をほとんど示さなかった。

今後は、兄弟姉妹関係ではないならば何が対人不安度に影響を与えるのか調べることを課題とし、長子・中間子・末子を考慮した研究をしていきたい。しかし、男女間での人見知り度合いの差は認めることが出来たため、男女の性格の違いについても調べていき、より多くの対人不安傾向を見つけていきたい。

## 5 参考文献

◆佐藤有耕(1995)「高校生女子が学校生活においてグループに所属する理由の分析」『神戸大学発達化学部研究紀要』3(1),11-20